



東京多摩プロバスニュース

第 66 号

■事務局: 〒206-0034 東京都多摩市鶴牧 5-29-10 平田方 ■編集・発行: 広報委員会 2016. 5. 11.

■電話・FAX (042) 338-7022 ■URL: <http://www.tokyo-tama-probusclub.com>

ふるさと多摩を若い人たちと共に

第 141 回 定例会

日 時 : 平成 28 年 3 月 2 日(水)午後 1 時 30 分より

場 所 : 関戸公民館第 2 学習室

お客様 : 多摩市文化振興財団 橋場万里子氏

出席者 : 25 名(会員数 32 名)

第 142 回 定例会

日 時 : 平成 28 年 4 月 6 日(水)午後 1 時 30 分より

場 所 : 関戸公民館第 2 学習室

出席者 : 24 名(会員数 32 名)

理 念

1. 豊かな人生経験を生かして地域社会に奉仕する
2. 活力ある高齢社会を創造する
3. 会員同士の交流と意欲の向上をはかる
4. 非政治的、非宗教的、非営利的であることとする



ごあいさつ



「多摩市の創生再生を目指して」

澤雄二 地域奉仕委員長

いきなり問題ですみません。多摩市から六本木へはどう行きますか？それでは銀座は、東京駅へは。答えは後で……。

今、北千住が大変人気のある住宅地になっているのをご存知でしょうか。その訳は五つの路線が利用できて何処に行くのにも便利だからです。「えっちょっと待って」……そうです。私達の多摩市も五つの路線が利用できますよね。京王線・都営新宿線・小田急線・千代田線、それに多摩モノレールです。

もうお解りですか。質問の答えです。千代田線の乃木坂駅で降りれば徒歩 4 分で六本木交差点です。日比谷駅で降りれば 2 分で数寄屋橋です。二重橋前駅で降りると 4 分で東京駅です。小田急線の多摩急行に乗れば乗り換えなしに、それぞれ 40 分前後で着くのです。嬉しいことに、この多摩急行は 4 月のダイヤ改正で 20 分毎の大増発になりました。都営新宿線もとても使い勝手の良い路線です。

今年のプロバスの標語は「ふるさと多摩を若い人たちと共に」です。実現するために若者を呼び込んで、もっと活気溢れる町にしたいと思います。多摩市の創生再生

です。そのため第一歩は居住地としての価値の高さを先ず私達が認識し、啓発することです。「多摩って、新宿から 1 時間位？」と言う人が多くいるのですから……。

豊かな緑も、憩いの公園も多く他に例を見ません。観光資源も数多くあります。乞田川の桜の美しさは目黒川と競います。上之根通りのモミジバフウは日本一です。メタセコイヤも見事。ピューロランドはキティちゃんの世界の聖地です。テレビ・映画などのロケ地は年間 140 ヶ所を超え、これも日本一です。

地域奉仕委員会は、今年の活動目標に「多摩市の創生再生」を掲げました。子や孫のために価値あるふるさとを目指してもう少し頑張ろうと思っています。



多摩プロバスかるたに詠まれた「宇宙(そら)桜」宇宙ステーションに滞在した桜種で、都立桜ヶ丘公園に植樹された若木

◇◇◇ 幹事・委員会報告 ◇◇◇

1. 幹事報告

稲田興幹事

1.1. 次期体制作りをスタート

3月16日(水)「有識者会議」及び「推薦委員会」を開催し、次期副会長をはじめとする理事候補者を選出。3月30日(水)の理事会での承認を経て、4月6日(水)の定例会で報告。次期理事候補者は下記の通りで、7月6日(水)開催の定期総会で正式に選任される予定。

会長：倉賀野武士、副会長：西村政晃、幹事：上田清

会計：鈴木泰弘、総務委員長：大澤亘

研修・親睦委員長：秋山正仁、地域奉仕委員長：村上伸茲
広報委員長：登坂征一郎、(監査：神谷真一)

委員会メンバーは4月13日(水)の「ドラフト会議」で次期理事候補者による指名をもとに調整。4月27日(水)の理事会で承認され、5月11日(水)の定例会で発表予定。なお、理事会は4月より引き継ぎも兼ねて新旧合同で開催する。

1.2. 復興支援チャリティーに参加

2月27日(土)多摩市桜ヶ丘商店会連合会主催の「浪江と多摩をつなぐ和太鼓コンサート」に、当クラブより倉賀野副会長以下7名がチャリティー参加。

福島県浪江町立浪江小学校・津島小学校と多摩市立瓜生小学校の子供たちの和太鼓による交流が行われた。

1.3. 埼玉浮き城PC 創立五周年のつどい

3月6日(日)行田市市長をはじめとする来賓40数名を含む、総勢80名強の参列で式典が盛大に開かれた。当クラブから神谷会長以下6名の参加。記念講演は元人事院総裁の江利川毅氏による演題「私の半生の思い出」。式典後のパーティーを通し、交流を深めることができた。

2. 委員会報告

2.1 総務委員会

鈴木泰弘委員長

1) 第141回定例会 3月2日(水)

講話：「関戸合戦～その史実と伝承～」

多摩市文化振興財団 橋場万里子氏

関連記事P3参照

2) 第142回定例会 4月6日(水)

卓話：「世界から見た日本・日本人への評価」

中村昭夫会員

関連記事P3参照

3) 第143回定例会 5月11日(水) 第2学習室

講話：「多摩第二小学校の発掘調査について」

多摩市教育委員会 石塚宇紀氏

4) 第144回定例会 6月1日(水) 旭館にて昼食会

座談会を予定

5) 現在の会員総数 32名(内休会6名)、会友10名

2.2. 研修・親睦委員会

鈴木達夫委員長

1) 4月12日(火)春の研修見学会

山梨県立リニアセンター見学では、屋外見学コースで時

速500kmの走行試験を見ることができ感激した。リニア館では50年に亘るリニア開発の歴史を学ぶ。

2) 5月26日(木)～27日(金)太平洋の美しい九十九里浜へ親睦旅行で出かけます。5月定例会で旅行計画書を配布し、再度参加者を確認します。

2.3. 地域奉仕委員会

澤雄二委員長

1) 市内の空き巣やオレオレ詐欺の被害の実態と防犯対策について、多摩警察に講話を依頼。

2) 多摩市の創生再生へ向けて、乞田川の桜、上之根通りのモミジバフウ、ピューロランド、日本一のロケ地など多摩市の観光資源について、PR内容や方法について多摩市の市民経済部と地域奉仕委員会で意見交換。プロバス側から多くの提案をした。

3) 多摩市のオリンピック対応策について、多摩市長と意見交換。協議会側から「市民100人につき1人がおもてなし」を目指し、2000人のボランティア育成。民泊150戸を実現し、年間10万人の観光客誘致等の提言について説明した。

2.4. 広報委員会

北村克彦委員長

1) プロバスニュース第66号を5月11日(水)に発行配布。

2) ホームページの更新を3月18日に行った。

◇◇◇ プロバスフェア実行委員会 ◇◇◇

澤雄二実行委員長

1) 展示

期間：6月2日～7日

場所：「京王聖蹟デパート5階連絡通路ギャラリー」

内容：① プロバスとは何か ② プロバスの理念 ③ どんな人が会員 ④ 定例会の紹介 ⑤ 4委員会の紹介 ⑥ プロジェクトチームの説明 ⑦ 特別活動としての実績 ⑧ サークル活動の紹介

2) イベント

日時：6月12日

場所：関戸公民館 7階・8階

内容：日本の伝統文化の体験及びヒーリングデュオ・アルビレオのコンサート

◇◇◇ クラブパンフレット改訂WG ◇◇◇

大澤亘リーダー

作業チームのメンバーとして稲田、北村、古澤、山田の4会員に参加をお願いし、2月22日から5回の検討を行い改訂原案をまとめた。3月30日(水)の理事会でこの原案について説明し承認を得、また印刷所と印刷部数、納入時期、価格について交渉に入ることも了承された。4月6日(水)の定例会においてもこの原案について、現行パンフレットとの相違点を中心に説明を行った。今後さらに全体を見直して最終案を固め、4月中旬に発注、4月末完成。

「関戸合戦～その史実と伝承～」について

公益財団法人多摩市文化振興財団 橋場万里子氏



パルテノン多摩で開催した特別展「関戸合戦～多摩市関戸に伝わる伝承とその背景～」をもとにお話しました。

最初に元弘3年(1333年)に新田義貞軍・鎌倉幕府軍の間で繰り広げられた分倍河原・関戸の合戦について『太平記』で流れを概観した上で、リアルタイムで作成された一次史料「軍忠状」に見られる記載などを紹介し、史実としての分倍河原・関戸合戦を確認しました。

地元には合戦の伝承地が残っており、現在でもその供養が続けられています。

関戸が合戦の地となったのは、交通・政治上・軍事上の要衝であったことが背景にあります。関戸で行われた幾度かの合戦の経験が、「地域の記憶」を形成していった可能性があるのです。しかしその一方で、現在当地に伝わる伝承

は、必ずしも中世の史実そのままではなく、江戸時代後半に相沢伴主が著した『関戸旧記』の考証を受け継いだものであるという研究や、背景に『太平記』の影響を指摘した研究があります。関戸の合戦伝承は、江戸時代に高度な文化活動が関戸でも行われていたこと、そして、当時『太平記』やその登場人物たちへの関心が高まっていたこと、つまり多摩の近世の文化的な豊かさを反映しているといえるのです。

関戸にはまだまだ謎があります。関戸の地名の語源となった「関所」は、戦国時代、後北条氏が有力者・有山源右衛門に対して関銭の徴収を認めた文書があることから、その実態の一端がわかるものの、未解明の部分も多くあります。そもそも、「関戸郷」の範囲にもさまざまな説があり、明確に確定しているわけではないのです。

関戸地域は合戦の伝承だけではなく、歴史的にも重要な謎がたくさん隠されている宝のような場所です。地域に伝わる言い伝えや地名・伝承、史跡などが大切に守られるとともに、継続的な調査活動によりさらなる歴史の解明が進展することを願っています。

世界から見た日本・日本人への評価

中村昭夫会員

アメリカの戦前の日本への見方は、「遙か東にあるちっぽけな国、下等な民族」であり、戦後も宣戦布告なしに突然真珠湾攻撃してきた国として、日本人に対する認識は低く、警戒心が大きかった。

私がアメリカに在住した(1969～73年)当時も、アメリカ人の日本に対する関心は低かったが、日本製家電製品の品質が良く、価格も安いということで販売も急増し、日本の評価は高まった。同時に、日本の文化、生活習慣、マナーなどが紹介され、日本に対する評価の高まりがアメリカ人の中に浸透してきた。

中国や韓国の日本に対するバッシングは大きなものがある。太平洋戦争において多大な被害を与えたことが大きな要因である。日本の形成には中国からの文化移転によるところが大きいにも拘らず、中国に対する尊敬や服従という拝華姿勢が全く見られないことに対する反発が大きいのではないかと思う。

韓国は、日韓併合による韓国の近代化の布石として、教育、鉄道の建設、産業の育成などに対する評価はあまりされず、日本に、国王・主権・資源・国語・姓名・生命の七つを奪われたという意識が強い。

台湾は、戦時中の日本の統治下において、韓国同様の義務教育、産業の育成などの近代化への布石を行った。また、日本人の八田与一氏によるダムの建設、農業水利事業に貢



献するなどから台湾の近代化に寄与したとの評価が高く、親日国である。

東南アジアでは西欧諸国によって植民地支配されていた時代、日本からの戦争によって受けた被害よりも、西欧の支配者を追い出して独立の機運を作ってくれた

という評価の方が大きいと思う。

東日本大震災は世界に報道され、被害者たちの行動姿勢が、多くの外国人に、大変な驚きを与えた。

インターネットに掲載された「日本人から学ぶ10の事」

- ① 冷静さ：被害者に騒ぐ人はなく、そこには静寂がある。
- ② 規律良さ：水と食料の配給を整然と並んで待つ。
- ③ 建築技術：建物は揺れたが崩壊することは少なかった。
- ④ 他人への思いやり、品格：自分の必要分だけを買う。
- ⑤ 秩序：略奪や無謀な追い越しなどなく、必ず他人の事を考える相互理解がある。
- ⑥ 自己犠牲の精神：原子炉に海水を注入すべく、50人の作業員が原発に留まった。
- ⑦ 災害訓練：老人、子どもすべてが淡々と行った。
- ⑧ メディアの姿勢：冷静なルポが続いた。
- ⑨ 優しさ：強いものは弱いものを気遣う。
- ⑩ 道徳心：店が停電になった時、客は品物を棚に戻して静かに店を立ち去った。

リニア見学センター・恵林寺大祭見学会

秋山正仁会員

4月12日参加者24名で快晴のもと出発し、予定通り9時45分、山梨県立リニア見学センターに到着した。

このセンターは日本唯一時速500kmで走行の超電導リニアモーターカーが間近で見られる施設です。2003年に世界最高速度を記録した試験車両をシンボル展示とし、リニアジオラマや浮上走行が模擬体験できる装置など、体験学習機能を充実させて、2014年4月リニューアルオープンした。

見学時間中に名古屋方面より3回、東京方面より3回実験車両が、時速500kmで通過するたびに大歓声があがった。11年後の2027年には品川・名古屋間を走ることになっています。

帰りは「わくわくやまなし館」に立ち寄り、そこでは山梨県の観光物産情報の紹介の他、ここでしか買えないリニアグッズ、山梨のお土産等販売しています。



500 kmで走行のリニアモーターカー

次は昼食会場の甲州市勝沼ぶどうの丘です。ぶどう畑に囲まれた丘に建つワイン文化発信の拠点、眼下に広がるぶどう畑、南アルプスや甲府盆地の絶景が広がり、360°満喫できる展望レストランでのカレーライスと赤ワイン、全員が満足したことと思います。

最終目的地恵林寺の途中に予定していた勝沼ワイナリーは時間の関係で試飲とお買い物コースのみでした。

13時50分風林火山歴史の旅、武田三代の夢の故郷恵林寺を訪ねる。山梨県を代表とする歴史的偉人武田信玄公の命日にあたる4月12日、菩提寺の恵林寺で「信玄公忌」が毎年行われている。

境内には国指定名勝の恵林寺庭園、国重要文化財の四脚門、県重要文化財の三門、うぐいす廊下等を見学し、市の観光課の御配慮で歴史博物館「信玄公宝物館」の見学ができました。展示には常設展と企画展とがあり、武田氏特に信玄公関係の資料、指定文化財を中心に美術工芸品、古美術、絵画、武具甲冑、貴重な古文書などがあり柳沢吉保公にまつわる大名道具も併せて展示されていた。

中村会員をお願いをし、帰りのバスの中で愛唱歌「いつでも夢を」他、全員で力強く歌いながらの楽しい研修親睦会でした。多摩センター、永山、聖蹟桜ヶ丘と順次、無事に帰着した。



そろばん出前授業

古澤靖雄会員

今年度のそろばん出前授業は、何事も無く終業となりホットしている。

今回は前向きな良きことがあった。ある学校の新しく赴任された少人数制算数担当の先生から、4年生も指導して欲しいと要請され二つ返事で引き受けた。対象の4年生は、1年前の3年生の時指導した子供たちであり大半の子供たちは私達のことを覚えていた。うれしかった！

指導内容は多少レベルアップしているが、お互い身近に感じスムーズに授業が進んだと思う。4年生の授業が今回で終わることなく定着するよう強力にアプローチをする積りだ。

今回も課題はいくつかある、その一つとして理解度が早く高い子、低い子の比率差が大きくなってきていることだ。毎回思い知らされていることだが子供たちの教室での行動、言葉使い、考え方等々に変化が見え隠れする原因のひとつは、家庭・世の中の生活環境が変わってきていることの影響と思える？いまひとつ理解できない心境だ。

この変化を深く、分析追究するには時間と労力をもって子供達との接触度を高め、絵を直視し、己の意識を変えることと思えてきた。“老いては子に従え”の諺を今この場でも噛み締めている。

1. 被災児の復興太鼓コンサートを応援

倉賀野武士会員

東日本大震災から5年。震災のことや原発事故のことが風化しつつある中で、未だに浪江町の全町避難によって休校になった浪江小学校は、震災前6小学校に1,162人いた児童が15人に減少し、二本松市の仮校舎で授業を続けている。前を向いて進もうという強い思いをもって、昔から浪江に伝わる標葉梅檀(しねはせんだん)太鼓の練習に励んでいる。一方、多摩市立瓜生小学校は伝統文化である和太鼓学習(瓜生太鼓)を全学年で実施し、様々な機会での発信を通して文化を受け継ぎ、大切にしている意識を高めている。太鼓に縁のある両校を結ぶ「浪江と多摩をつなぐ和太鼓コンサート」が2月27日に桜ヶ丘商店会連合会、桜まつり実行委員会共催により開催された。

「和太鼓せいせき鼓桜」栗原氏の演出指導の下に、浪江小、津島小と多摩の瓜生小、東寺方小が日頃の成果を披露し最後に、「応援太鼓」を合同演奏した。フィナーレでは、会場より“がんばれよー”の掛け声と声援の拍手が送られた。当クラブの稲田・大澤・北村・鈴木(泰)・澤・倉賀野の各会員が参加し応援をした。



2. 無声映画上映会

堀内陽二会員

関戸・一ノ宮コミュニティセンター主催特別企画「無声映画上映会」が、3月6日(日)に関戸公民館8階のヴィータホールで開催されました。この企画に賛同の当クラブと多摩市文化団体連合そして桜ヶ丘商店会連合会に後援いただき、心配された前売り券は昨年12月末に完売し、大勢の方々にご来場いただきました。

この活弁士つき無声映画は「キートンのセブンチャンス」1925年アメリカ作品と「子宝騒動」1935年日本作品の2本立て。昔懐かしの活動写真を楽しむことはもちろんですが、見どころは日本が独自に築き上げてきた活弁芸能で澤登翠さん(弁士歴43年)という当代随一の女性活弁士の「語り芸」を鑑賞することの興味と期待が多かったことと思いました。

90年前の貴重な文化遺産の再現ということもあり、阿部多摩市長はじめ多くの御来賓にも出席いただきました。

上映会終了後、阪東熙子会員が往時の「語りの神様」といわれた活弁士徳川夢声翁の似顔絵の色紙を澤登翠さんに進呈するという一幕がありました。

(注記:筆者は主催の関戸・一ノ宮コミュニティセンターの理事の要職にあります。)

3. 「歌で若返ろう 楽しい健康づくり」に参加して

北村克彦会員

音読が脳の活性化に効果的だとすれば、歌はリズムや音程を表現できるから、単なる音読よりその効果が期待できる。歌を歌って楽しく老化遅延トレーニングを展開しようというこの市民企画講座が、3月15日の第4回をもって終了した。

4回の講座では、懐かしい歌謡曲、唱歌、童謡を題材にして、歌詞を見ないで思い出しながら歌う、歌詞に合わせて動作しながら歌う、前奏を聴いて曲名を当てる、詩を味わって朗読し、曲想を感じて歌う、長調・短調の旋律の違いを感じ取って歌う、歌の題名を聞いて、その歌の中に出てくる色を当てる、気分を変えて懐かしい歌を歌うなどのレッスンで構成された。

最終回には、リンゴの歌の「りんご」と言うところを、その日が誕生日の会友永島仁さんの奥様の名前「なみこ」に置き換えて歌った。

講師滝本治夫氏の軽妙なお話に導かれて、受講した皆の脳も活性化したようだ。なによりも歌の楽しさをあらためて思い起こすことができたことが大きな収穫だった。

4. 男の料理教室「お花見会」

瀬尾日出男会員

定年を機に自由な時間をどう活かすか?を目指して始めた、男の料理教室(ヴィータ男の会)恒例のお花見会が、丁度見ごろを迎えた「鶴牧西公園のシダレザクラ」

(多摩市天然記念物)を見物しながら4月1日に行われた。

当日は近くの「からきだ菖蒲館」調理室にて午前中、会員の頑張りでお花見弁当(ビュッフェ式)を得意とする?品数の料理を提供、日頃の成果の一端を示すことができ今後に一層の励みとなった。



昨年より多い一般参加者は季節感のあるお弁当を食べ、大正琴の演奏、愛好家によるマジック、ビンゴゲーム等に楽しんでいただき、大いに賑いを呈した。今回の催し物を機会に、より一層の料理作りに励むことを目指すことにした。

5. 貝絵展

吉岡喜久恵会員

4月1日から3日間、桜が咲き誇る多摩中央公園内の「旧富澤家」において、「東京貝合わせ研究会」15名の貝絵の展示と貝合わせの体験会を実施しました。

私たち研究会は、日本古来の貝合わせを広く世代を超えてお伝えたく、中学生の「伝統文化の継承」授業のお手伝いをさせていただいたり、市内のコミセン・サロンの集まりなどで貝合わせを行っています。

今回は3日間で若いカップルも含め400人を超える来場者を得て予期せぬ喜びでした。来場者には貝がぴったり合うという初めての体験に感動したり、子供さんもその遊びに熱中して沢山の貝を合わせ取っていました。この様子から千年の移ろいと日本文化の素晴らしさを改めて噛み締めました。



6. お花見茶会

鈴木泰弘会員

4月2日(土)鶴牧西公園の農家風古民家にて今年も花見を兼ねて茶会を行いました。

午前中は多摩茶道連盟の菊池宗秀先生、小西鶴葉先生、佐藤光純先生のご指導で立礼のお稽古。

午後は花見に来て立ち寄られた方々にお茶を味わっていただきました。あいにく花冷えの一日でしたが、阪東熙子先生や茶道連盟の先生方、海外からの親子連れや、国際交流センターの若い方々等で和やかな一期一会の茶会となりました。



お点前は瀬尾日出男会員他ベテランの「侘助」会員が担当し、お菓子やお茶の出し役(半東)では大澤・神谷・倉賀野・鈴木・登坂の会員が真剣にこなしました!

菊池・小西・佐藤先生にはお道具の準備や手作りの干菓子の用意までして頂きました。厚くお礼申し上げます。

ベトナム見聞録<2>

稲田興会員

- ◆宗教は大乗仏教、主体は中国の影響が強く道教で、寺院の本尊は3体の釈尊；過去・現在・未来を表すとか。これらと合祀され、いろんな神様が同居している。
- ◆言葉は広東語の流れを汲んでおり、声調言語で6声ある。ローマ字表記で、声調記号が付されている。
- ◆十二支は、牛が水牛、兎が猫、羊がヤギ、イノシシはブタと日本とは異なり、所変われば……の感が出た。
- ◆世界遺産のハーロン湾までハノイからバスで3時間半。「近くに飛行場が欲しいね」と質問したところ、計画はあったが造れば中国に占領されるから止めたと言う。中国国境まで数十キロでは無理なのか？常に中国が脅威！
- ◆朝夕のラッシュでは、オートバイの数がもの凄いの。



ホーチーミン市の人口 800 万人に、オートバイの数が 600 万台あると言う。日本製のシェア 9 割で、ホンダの人気の高い。

タクシーは殆どがトヨタ製。ただ、産油国でありながらリッター90円は高い。人件費は日本の1/10程度でインドの1/3。他の国に比べ企業での定着率は高いし勤勉(他の国々ではジョブホップが主流)。

◆食べ物は、比較的淡泊で広東料理の流れを汲み、日本人の口に良く合う。フォーやライスペーパーを使った春巻き、シーフードが中心。果物も豊富、主食は米で、南部は三毛作、中部以北は二毛作。まだ人手での農作業である。米の輸出はタイに次いで世界2位、コショウは世界最大の輸出国、コーヒーもブラジルを抜いて世界1位。

◆アオザイは、高校生の制服になっている他にキャビン



アテンダントや空港職員、観光客相手の店員などが主に着用。背が低く、なで肩の体形をカモフラージュする洋服と

のこと。ヒールの高い靴を履いている。なお、太めの女性はほとんど見当たらない。

◆トイレ事情：観光客が立ち寄る所は、水洗トイレになっているが、ペーパーホルダーが取り付けられていない。ホテルも同じ。ロール紙が置いてあるだけ。

◆私の初体験

①ベトコンが造った地下トンネル潜り。立って歩けず、

しゃがんで歩くので、長くは歩けない。もっと先には部屋があると言うが30m程でやめた。総延長250kmという。

②実弾射撃10発中50m先の的には2発しか当らなかった。ソ連製単発銃で不発弾が多い。

③ホイアンの夜の灯籠流し(日本橋を眺めながら……)とシクロ(人力車の自転車版)での旧市街観光。ランタンの夜景は毎日お祭り気分。



④各都市の地ビールやコブラ酒の試飲、エレファント・イア・フィッシュと風船餅の試食等々。(次号に続く)

◇◇◇ ハッピーバースデー ◇◇◇

3月誕生日を迎えられ
ました!

4月誕生日を迎えられ
ました!



左から小西加葉子・平田哲郎・岡野一馬各会員



左から澤雄二・大澤亘・神谷真一各会員

◇◇◇ 編集後記 ◇◇◇

桜の時期も終わり春真っ盛りの季節になりましたが、天候不順で寒暖の差が大きい日が続いています。

熊本・大分両県で起きた大震災で、多くの人達が家屋の倒壊や崖崩れなどの大変な被害を受け、多くの死者が出た上に、また多くの人達が避難生活を強いられています。回復には相当の時間がかかると思いますが、一日も早く余震が収束して平穏な生活に戻れることを祈るばかりです。

今号のニュースには、クラブ各委員会の行事や会員個人としての多様な活動が報告されています。会員のこのような活動には大変感心させられ、素晴らしいことと高く評価します。また、卓話や寄稿で、海外の状況についての報告もあり大変興味がある内容でした。当クラブのメンバーには多才な人材が揃っていることを実感しました。会員が持っているキャリアや技術・ノウハウなどを活かして社会活動を行っていくことは、プロバスに与えられた大変重要なミッションであります。当クラブ活動が今後ますます盛況になって行くことを心から期待しています。(広報委員 中村昭夫会員)